

日本で初めてとなる日本武芸「体道」の授業がスタートします

文化学部スポーツ文化コース「日本武芸文化演習基礎Ⅰ」

文化学部スポーツ文化コースでは、平成20年度春学期より、日本武芸文化を学ぶ講義として、大学では日本で初めてとなる日本武芸「体道」を学ぶ授業がスタートします。

「体道」とは、昭和39年に結成した全日本体道連盟が教授する古武術です。日本武芸を学ぶための基本的な身体技法と16世紀に創られたとされる浅山一伝流体術の初目録の型を学びます。文化学部スポーツ文化コースの2年次春学期授業「日本武芸文化演習基礎Ⅰ」の中で、希望者は、2年次秋学期授業「日本武芸文化演習基礎Ⅱ」、3年次春学期授業「日本武芸文化演習応用Ⅰ」、3年次秋学期授業「日本武芸文化演習応用Ⅱ」まで修得すれば、全日本体道連盟公認段位初段の取得も可能です。現在「体道」を講義として学べる大学は日本で本学のみとなります。

本講義では、演習を通して、日本武芸文化の奥深さを学びます。特に身体技法の合理性は、身体の仕組みや動きに応じた技の体系、型に集約された技の多様性、相手との身体を通してのコミュニケーションにまで至ります。さらに身体で覚えるだけでなく、その内容を自分の言葉で記述することにより、身体感覚を客観化する能力や表現する力を養います。

第1回目授業を4月11日（金）に行います。手始めとして、瀧元誠樹文化学部准教授（全日本体道連盟事務局長、体道達士・七段、師範）と金 誠文化学部講師（体道三段）による模範演武を披露します。

「日本武芸文化演習基礎Ⅰ」

第1回授業（教員による模範演武）

日時：平成20年4月11日（金）3講時（13：00～14：30）

場所：札幌大学研修センター体育館（札幌市豊平区西岡3条7丁目 本学キャンパス内）

第2回目以降授業

毎週金曜日、3講時（13：00～14：30）

次の型を順に指導 「引落」「抱込」「小手返」「入違」「猿手投」「両手取」

「両胸取」「霞返」「折木」「打落」「行違」「襟引」 最終回に試験として演武を実施

【「日本武芸文化演習基礎Ⅰ」で学ぶ浅山一伝流体術について】

室町時代末期頃の武芸者浅山一伝斎重晨により創始された剣術、体術、棒術、捕手術などを主とする総合武術。授業では、相手の動きに応じた固め技、関節技、投げ技など一つ一つ独立した相手を制する護身の型を学びます。型には、次の3つの要素があります。

- ①「用」（よう）・・・きちんと使える技であることを意味します。
- ②「流」（りゅう）・・・受講生にとって、創始者である浅山一伝斎重晨から続き、藤谷昌利一瀧元政嗣一瀧元誠樹・金 誠へと伝承されてきた流派の流れと、演じる際のリズム・呼吸を意味します。
- ③「美」（び）・・・字のとおり美しく演じることを意味します。